

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4772300044		
法人名	社会福祉法人 幸仁会		
事業所名	さわやかホーム 比謝川の里		
所在地	沖縄県中頭郡嘉手納字水釜336-2		
自己評価作成日	平成22年9月10日	評価結果市町村受理日	平成23年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojoho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4772300044&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市楚辺2-25-7 セントラルハイム南西303号室
訪問調査日	平成22年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一般住宅を改修した建物で畳間や床の間をそのまま残し、和風的な部分もあります。アットホームな施設。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、国道を少し入った閑静な住宅地に佇む。周りは程よい空間に恵まれ隣地に広大な菜園、住宅正面からは、遮ることのない大空が仰げる。利用者は自分の好きな、どの場所においても「さわやか」な光と風に出会える。2階建て民家を改修し、利用者の暮らし易さを考えエレベーターを設えた。管理者を中心に職員は纏まっており、月1回開催の給食委員会では、「食から広がる入居者のアメニティ」をテーマに、何を望んでいるかを追求している。遠隔地にいる家族に対しても支援を惜まず、家族は「ただいま」「おかえりなさい」と挨拶を交わしホームに滞在する。これからも地域の方が、より気軽に足を運び、ご近所の拠り所として位置づけられ、利用者のおよき理解者がさらに多くなるよう期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者と職員ともに話会い、わかりやすい言葉で独自の理念を作りあげた。年始めに理念の見直しはないか、確認の話会いを持っている。	理念は職員と利用者でつくっている。玄関横に掲げられた理念は、利用者が毛筆で書き上げ、職員はともに唱和しあって日常生活の中に溶け込んでいる。家庭(ホーム)において役割をもち地域に暮らし続けるという理念は、ホーム内外において日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の畑の主より野菜をいただいたり、週に1回の三味線の練習日にお隣の方も参加。利用者も地域に顔見知りになっていて、名前も覚えてもらっている方もおられる。	隣の畑から窓越しに新鮮野菜が届いたり、買物は地域の店を利用する等して、馴染みの関係が日常的に続いている。地域に点在する24時間営業店も、ホームの大切な社会資源として買物や散歩コースに取り入れ、利用者とお出かけ、顔の見えるおつき合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の学生の実習を受け入れたり、介護教室での一般人の施設見学の際にグループホームの役割あり方を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの実状や地域の情報もよくわかるようになった。評価の取り組み状況にも意見をもらい、早急の解決に向けての情報の提供もある。	運営推進会議は規定のメンバーが参加し年6回行われている。回を重ねるごとにホームへの理解と協力が得られ、好意的な意見が活発に出ている。中でも具体的な意見(住居(ホーム)点検)があり、ホーム内外の危険物のチェック等をメンバー全員で実施している。前回の外部評価課題であった自治会加入の件は、検討した結果加入はせず情報提供をしてもらうこととしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	外部評価の結果も報告している。入所の件で困難な事例も相談している。	職員の勉強会に町担当者を講師として招き「地域包括支援センターやグループホームの法令等」について学んでいる。定期に発行しているホーム便りを毎回送付しているが、ホームの状況や取り組みを理解してもらえるようアピールするに終わっている。	町担当者の講和は一度だけの開催となっているので、定期的な勉強会として続けられることを期待したい。市町村へはホーム便りだけでなく、ホーム内の小さな行事や状況、相談ごとなど、大きな事でも、いつでも気軽に連絡して関係性を深めてほしい。受身にならず、積極姿勢を示し、さらに前進することを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず家族や訪問者が気軽に来所できるようにしている。やむえず身体拘束する場合は家族の理解を得る話し合いを持っている。	玄関は鍵をかけず自由に入出入りができるが、外出希望者にはいつでも散歩支援をしている。利用者への言葉かけにも細心の注意を払い、拘束に関する勉強会も行っている。安全面から夜間だけベッド4点柵を施す部屋があるが、家族と十分話し合い、手順を踏んだ上で行っている。納得と理解を得つつも、早期撤去の努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間においても虐待をみすごさないように注意し、報告し防止する。すこしでも異変を見つけ報告		

沖縄県(さわやかホーム比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料等も準備し勉強会も独自でおこなっている、まだ必要性が出てきたらきちんと話合いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をするときに契約文を十分に理解できるように説明し理解を得ている。疑問があれば適切に答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の声はどんな些細なことでも聞く姿勢を持ち、家族の意見も反映されるよう努力する。直接言葉で言えないときは意見箱を利用してもらう。	家族には会うたび苦情はないか聞き、また何でも気軽に話してもらえるよう雰囲気作りをしている。家族の意見等はその日に状況分析し、改善に向けて話し合っている。遠方に住む家族から意見が寄せられることがあり、心配している案件を職員間で話し合い検討して、早急に結果を家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体運営委員会があり職員が困っていることや、提案を報告して運営改善に反映させている。	職員の異動は利用者の心情に配慮し、準備期間として2・3か月前から新旧職員重なって関わっている。母体施設に利用者全員で出かける時は異動した職員と再会し、旧交を温めあっている。職員が研修や法人内勉強会にも積極参加しており、学習成果として除湿加湿の工夫を施し、利用者の部屋が快適になった一例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況や力量等を評価し、給与に反映したり職場内で問題があれば話しあい、改善するよう努力する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が計画する研修や勉強会に参加し、またグループホーム連絡会に加入しており、研修の機会を確保できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の取り組み等の情報交換や困ったことはお互い相談したりとしている。グループホーム連絡会は多くの施設の交流の場でもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者のアセスメントをしっかり取り、本人の生活状況を把握し、主の生活ペースに合わせた生活ケアで接するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや要望を職員全体で受け止め、共有するケアを行っている。また家族に状態の変化等は不安のないよう報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容と本人と家族の意向。身体状況を把握し、今困っているのを見極める。他のサービス情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの人格を尊重しホーム生活を通して、得意分野を生かした、役割分担を行なっている。共に協力して支えあう関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者本人が抱えている問題や不安を職員だけではなく、家族とともに協力して考えるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者本人が慣れ親しんだ人の話や場所の話題が、途切れることがないようにコミュニケーションを図っている。時にはふるさと訪問も行なっている。	利用者の殆どはホーム近くからの入所であり、馴染みの人や場所等の関係性が途切れることはない。日常の散歩は家の近所を散策するようにし、昔馴染の知人に声かけられてお茶や黒糖をご馳走になることもあり、地域とホームと利用者は同心円の関係にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士うまく馴染めない方には、職員が補助役になって関係づくりを支援している。		

沖縄県(さわやかホーム比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される時は相談や協力体制をお受けすることを話し、退所後も繋がりをもてるように勤めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での本人の意向希望を聞き、家族も含めたその人らしい生活を前提とし、検討している。	利用者には今日一日どのように過ごしたいかを聞いており、希望することが叶えられるように各種用具を備えている。自己主張ができない利用者に対しては、マンツーマンで向き合い静かに時間を共有している。利用者と職員が手を重ね合わせてソファにゆとりと座って過ごしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時に本人、家族から生活歴や趣味・嗜好・性格の情報を聞き取る。また担当したケアマネやかかりつけ医からの診療情報も提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の性格や好みにできるだけ添うようにホーム活動を支援している。塗り絵・パズル・音楽鑑賞・テレビ観賞		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の思いを原案に、本人の望む生活支援できるように、定期的に個々の状態を話しあひ、レベルにあったケアで介護計画を作成している。	利用者の介護計画は個別対応し、「家族との関係を考慮して週一度の外泊」等計画に反映している。食の細かい利用者の個別計画に於いては、食事形態を何度も試行錯誤をしながらモニタリングし、オリジナルのミキサー食で食欲増進に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録に様子「や実践等を記載している。また利用者個々に変化があればその都度、職員間で情報を共有し見直す。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族が外出や外泊の希望があれば、柔軟に対応している。知人等に会いたいとの申し出や電話をかけたなどの要望も対応している。		

沖縄県(さわやかホーム比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に顔見知りになっていることから、利用者を見かけると気軽に声をかけてくれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医を家族、本人の希望のもと継続し適切に指示を受け病状管理の支援を行なっている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医を受診支援している。受診は基本的には家族対応だが、家族からの要望があれば職員が同行受診する。受診時は病状の他に利用者の日頃の様子等も情報提供している。また、緊急時に対応して貰えるよう近所の病院へも出かけ、挨拶を交わす等して馴染みの関係づくりをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調変化の場合、看護師に連絡24時間オンコール体制でおこなっている。また医療が必要な入居者には訪問看護(医療)の支援もおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者や家族が安心して治療できるように、お見舞や、病院関係者との情報交換や相談も行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や週末期については家族も不安なことから要望等は話あっている。事業所でできることの限度も話すようにしている。まだ不十分なところがある。	終末期に向けたケア方針はまだ出来ていないが、其の必要性を強く感じている。本人家族による、終末期の在宅要望があり、事業所の限界を家族に話したが、其のつよい思いを汲み取り、ホームで出来る最大限のとケアと力を出し、職員一丸となって支援した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に目につくところに資料等は設置して、日々の急変時に備える姿勢でいる。今後訓練を実施したいと思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は定期的におこなっている。避難の際は近隣に協力支援お願いしている。地震や津波発令時の避難場所も確保している。	火災避難訓練は定期的に行っており、近隣の参加は少ないが各家庭にチラシを配布している。訓練では、2階から人命救助する方法や手順等を学んでいる。火災報知機や非常ベルは屋内にも屋外にも取り付けて近隣からの協力を早目に得られるようにしている。津波警報発令時には、確保された避難場所に備蓄を持ってホーム全員で避難し宿泊している。	2階建て住宅では、利用者を安全に非難させることは容易ではないため、地域住民へ訓練参加について協力を得られるよう更なる関係強化が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の性格や病状を把握し、プライドを傷つけないよう心掛けている。定期的にプライバシーについてはなしている。	利用者の人格尊重を日常で確保する為、「焦らさない。驚かさぬ。その人に合わせる」のブチマニュアルをつくり、合言葉にしてケアを実践している。また、自己表出が困難な利用者に対しては、食事のメニューを選択する時複数メニューを撮影し、写真で自己決定してもらう等の工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム生活の中で入居者個々の能力を把握し押し付けのないよう、喜び。悲しみ。怒り等どんなことでも話せるよう、質問内容や選択の仕方を工夫し自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の居心地のいい場所を尊重し、できるだけ自由に当たりまえの生活ができるようにしている。利用者のペースを基本に対応		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みでおしゃれを支援している。装飾品をつけることが楽しみの方も支援している。また入所前からの行きつけの美容室へも継続し援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を利用者の能力に合わせて、職員の見守りのなか一緒にこなしている。味付け方法を聞いたり、利用者が自分が手伝ったという意識をしていただいている。	利用者はそれぞれの役割をこなし職員と一緒に食卓を囲んでいる。トレーは使用せず、品数は自分で確保する。ご飯当番の利用者は、暖かいご飯を提供する気遣いを持ち、各人が席に着いたらよそい始める。食物から話題が広がり、明るく会話も楽しく飛び交っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量や食事量のチェックを記録している。食事の盛り付け、アチビー ミキサー 刻み食と本人の好みや能力摂取しやすい工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の起床時や毎食後の口腔ケアは必ず行なっている。個々の能力にあったやり方で十分にできない方は最後に確認支援している。時には舌磨きもおこなっている。		

沖縄県(さわやかホーム比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己排泄の訴えない方は、排泄パターンを把握し誘導、また自己排泄できる方は自立支援を促し見守り介助している。	日中のオムツ使用はなく、職員は利用者の排泄パターンを把握して、適切な声かけと見守り、前誘導により殆んどトイレを使用している。失敗時には周りに気付かれないよう浴室へ誘導の声かけをし、手早くさりげなく対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防としては水分をこまめに促し、入居者の便通を促す牛乳等も対応。軽運動もその対策としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のお誘いし拒否の場合は無理強いせず、時間を置いてタイミングを図っている。また入浴希望の方も個々の訴えに対応している。	早朝5時の入浴希望者を始め、利用者が好む時間に入浴を支援している。羞恥心の強い個浴希望者に対しては風呂場の外で待機して支援している。また同性介助の対応も可能である。入浴に抵抗感のある利用者に対しては、「立ち時がタイミング」の合言葉をもって誘導することを職員間で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活パターンを把握し、日中の活動や精神的に不安を与えないようなケアを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の薬箱があり、常に薬の説明書を貼って副作用等の確認ができる。薬の変更があった時は観察をし看護師との連携もとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことを把握し、パズルや塗り絵や民謡を聴いたりしている。時には外出をし気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望で月に2回程度自宅に帰っている。仏壇にお供えをしに行っている。近所の方の協力で送ってもらったりする。馴染みの美容院も定期的に行って近所だった友達と会いゆんたく会 また週に1回程度のドライブを行なっている。	利用者が好む時間に個別の散歩を支援している。週一回のドライブでは、行き先を近隣の公園やミニイベント会場等地域を回り、また、遠出のドライブでは、ふるさと訪問を行っている。利用者のふるさとへ皆で出かけ、地元の人々から歓迎を受け土産も頂いている。	

沖縄県(さわやかホーム比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こずかい程度は管理できる方もおり、ほしいものがあるとき対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚や家族に連絡したいとの希望があるときは、対応している。番号がわからないときは一緒にさがして電話をかける。自分で子機を使用し電話でもおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な空間の照明で、時には日差しが共有の居間に差し込み明るい。テレビ・ラジオも利用者の希望の音量も確認している。庭もながめることができ天気も確認できる。	畳間の共用空間は座り心地のよいソファーが多めに配置され、中央のリビングはゲームに興じたり、全員参加のレクリエーション等で賑わっている。畳間から明るい縁側に出ると、芝の手入れが行き届いた緑の空間が広がっており、利用者がどこに居ても寛げるように配慮している。キッチンが室内の様子が見渡せる設えとなっており、生活の音が穏やかにホーム内に響き渡っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファーやイスは自分で座る場所を、確保している。一人で過ごしたり、2～3人で座るソファーもある。気の合ったもの同士で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・洋タンスは施設でも設置しているが、自宅から持ち込んでいるかたもおられる。また宗教も制限しないで、自由に部屋で拝んでいる方も支援。家族の写真も置いて気持ちを安定させている。	居室には、筆筒や祭壇、利用者が希望する物品が持ち込まれている。大きな窓、清潔なシーツや家族写真に囲まれ、利用者一番の落ち着いたマイルームとなっている。県外に住む家族の訪問時に備え、ベッドが別に用意され滞在中は利用者の部屋で家庭のように過ごせるよう配慮している。帰省した家族と利用者はホームから墓参等外出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーター使用できるかたは、指導し自分で行き来できている。階段はすべり止めを工夫し、制限するのではなく、できる方は安全を確認し利用させている。		